

# かわら版34

発行元  
所沢市高齢者大学 第34期同期会  
広報委員会



## 新年の挨拶

会長 戸村 慎志



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては希望に満ちた新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。新年が皆様にとって健康で幸多き年でありますように祈念しております。

今年が平成最後の年、5月に年号が変わり、10月には消費税が10%となることが予定されておりますがどのような年になるのでしょうか。昨年の世相を表す漢字一文字にもありますように「災」が平和な所沢を襲うかもしれませんなどと不安になります。でも、身体的にも精神的にも健康を維持していればどんな状況でも切り抜けられると思っています。今年も健康第一をモットーに前向きにいろいろな事にチャレンジして行きましょう。

本年もこの「かわら版34第13号」をお届け出来ることを本当に嬉しく思っております。このような挨拶をしてからもう9年になります。昨年12月現在で会員は78名となり、卒業時の約半分になりました。来年は同期会発足から10周年となります。当初より会長になった以上5年は継続したいと思っておりましたが皆様のご協力でここまで続けることが出来ました。しかし、いままでの同期会の活動を顧みますとマンネリになっていることが恥ずかしく思いました。そこで、この10年を一区切りと考え、今後の同期会の在り方とそれに伴う役員刷新を今年の総会で真剣に討議して頂き、その結果を踏まえて来年の総会時に10年の区切りの記念行事としての大々的な懇親会を行いたいと思います。総会の議題にその旨を明記してご案内したいと思いますので、ご理解ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 第8回定期総会で想うこと……

副会長 納富 信夫



平成30年6月27日(水)に老人憩いの家「ところ荘」にて、第8回定期総会が開催されました。昨年同様42名という多くの参加者が出席され、会員のアート作品に見入っていました。また私は残念ながら参加できなかった午後の懇親会も、戻った時には歌や踊りで盛り上がりその活気に圧倒されました。

### 34期同期会平成29年度決算報告書 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

#### 収入の部

科目	予算額	決算額	差額	備考
前期より繰越	137,946	137,946	0	前期末残金
会費	85,000	83,000	△2,000	29年度会員数83名
雑収入	0	4,264	4,264	旅行費残
合計	222,946	225,210	2,264	

#### 支出の部

科目	予算額	決算額	差額	備考
会議費	28,800	26,015	2,785	施設使用料、ゲーム景品代等
事務費	10,000	1,495	8,505	コピー代、事務用品代
通信費	10,000	0	10,000	
広報紙発行費	20,000	24,099	△4,099	かわら版印刷代、発送代等
バス旅行補助	20,000	0	20,000	
役員通信費	13,000	13,000	0	役員、連絡員の通信費
予備費	20,000	0	20,000	
合計	121,800	64,609	57,191	

#### 次期繰越

次期繰越金	101,146	160,601	59,455
-------	---------	---------	--------

上記の通り会計報告いたします  
平成30年6月20日

34期同期会 会長 戸村 慎志  
会計担当 大木 美和子

藤井 洋子

監査の結果、適正であると認めます。

34期同期会 会計監査 大館 徹  
木口 温子

総会は第1号議案「29年度事業報告」第2号議案「29年度会計報告及び会計監査報告」が拍手をもって承認されました。また第3号議案「30年度同期会役員・連絡員名簿(案)」第4号議案「30年度事業計画(案)」第5号議案「30年度予算(案)」についても拍手で承認され(案)が削除されました。

特に、会報については未執筆の方に積極的に寄稿をお願いしました。また、繰越金が多くなったので懇親会費用と11月16日(金)のバス旅行に一人当たり500円の補助を盛り込みました。

#### 同期会役員・連絡員名簿(平成30年度)

役職	班氏名	
会長	6班 戸村 慎志	
副会長	16班 関 次郎	1班 納富 信夫
会計	2班 大木 美和子	2班 藤井 洋子
会計監査	11班 大館 徹	5班 木口 温子
企画運営委員	10班 高柳 進	8班 金谷 光夫
広報委員	16班 関 次郎	4班 山本 直
連絡員	1班 納富 信夫	9班 長谷川 信二
	2班 藤井 洋子	10班 高柳 進
	3班 寺嶋 夏江	11班 大館 徹
	4班 山本 直	12班 戸村 慎志
	5班 木口 温子	13班 北村 泰章
	6班 戸村 慎志	14班 佐藤 信二
	7班 諏合 勝義	15班 和田 英雄
	8班 金谷 光夫	16班 関 次郎

これまで長きにわたり同期会活動を続けられたのも、ひとえに会員の皆様のご協力の賜物と思います。ただ、少しずつ会員が減少する中、これからの同期会活動の在り方を見直す時期に近づいているのかも知れません。今後はホームページの活用等が重視されていくことと思われます。皆様の知恵を出し合って考えていきたいと思っています。

これまで長きにわたり同期会活動を続けられたのも、ひとえに会員の皆様のご協力の賜物と思います。ただ、少しずつ会員が減少する中、これからの同期会活動の在り方を見直す時期に近づいているのかも知れません。今後はホームページの活用等が重視されていくことと思われます。皆様の知恵を出し合って考えていきたいと思っています。

## 余興担当の独り言

副会長 関 次郎

原稿の締め切り期日が過ぎても一向に筆が進まない。気持ちばかり焦るのですが、ちょっとの時間を見つけては別なことを始めてしまう。そんな経験はありませんか。

昨年6月の同期会総会後の懇親会について書くことになっていたのですが、これがなかなか始められない。こんなことは初めての経験でした。これが齢を取るといふことなのか



など、何でも齢のせいにして妙に納得していましたが、よく考えてみると原因は他にもあることに気が付きました。一番の原因は「マンネリ化」にありました。何年も続けて懇親会の余興担当としてプログラムを作り、歌ったり踊ったりしてきましたが、同じ人間の企画するものは長く続けるとどうしてもマンネリ化するものです。元になる発想が変わらないからです。

今にして思うと2013年6月開催の第三回総会の後の余興で披露した「オールディーズで

綴る僕達の青春グラフィティ」がすべての出発点でした。若かりし頃を思い出しながら脚本を書き、曲を選び、出演交渉（これが一番大変でした）、カラオケボックスでの練習など、苦労は多かったものの終わった後の満足感は忘れられません。

それ以降「お久しぶりシスターズ」、「K.O.S」、「鼻づまりシスターズ」、「W.x.Y」など新しいスター(?)が数多く誕生しました。詩吟やカラオケ、コーラスは勿論、ハーモニカやウクレレ、リコーダーの演奏披露もあり、回を重ねるごとに内容が充実してきました。踊りも炭坑節、同級会音頭からフォークダンスまで、恥ずかしがる男性陣を尻目に女性陣はいつも元気いっぱいでした。

こうして振り返ってみると毎年の懇親会が懐かしく思い出されますが、どこかにマンネリ感というかやり切った感を禁じえません。我ながらこれまでよくやってきたという自負はあるものの、そろそろネタが尽きてきたという感じでしょうか。

そんな中でかわら版の原稿を書くために昨年の総会をホームページでチェックしたところ、展示品の豊富さに改めて感心させられました。常連の長谷川さんの書、大館さん、岸さんの写真のみならず、畑島さん、佐藤さんのハワイアンキルト、木口さんのパ



ッチワーク、亀山さんの鎌倉彫、斎藤さんの絵手紙、黒田さんの俳句などどれを取っても素晴らし展示作品をみると、ある意味瞬間芸ともいえる歌や踊りと違いマンネリとは縁遠いものという感じがします。出来上がった作品もさることながら、キルトの一針一針に思いを込めて縫い上げるプロセスにこそ醍醐味があり、同じことの繰り返しにみえますが、決してマンネリに陥ることのない静かな時の流れを感じます。

マンネリ打破に気を取られすぎていたようです。腹を括ってマンネリ大いに結構で行きましょう。これまでとあまり変り映えのしない余興になっても、年に一度のマンネリを楽しんで貰えるよう次回のプログラムを企画する活力が湧いてきました。その中にちょっとだけでも何か新しいチャレンジが盛り込めれば良いのですが。

作者名は敬称を省略しました



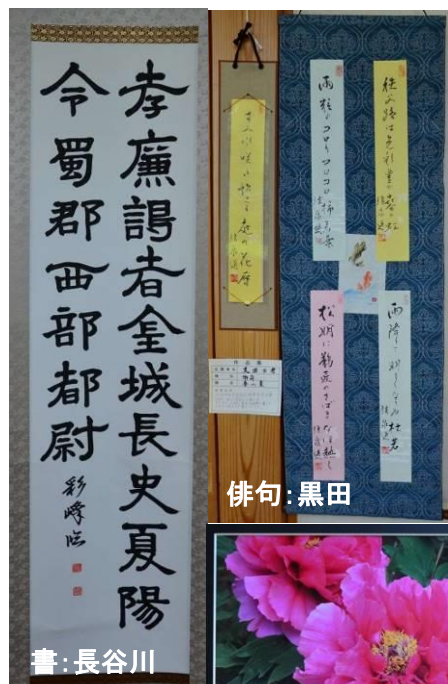
ハワイアンキルト  
:畑島



パッチワーク:木口



鎌倉彫:亀山



書:長谷川



ハワイアンキルト  
:佐藤



写真:岸



筆ペン画:大館



絵手紙:斎藤

## 同期会バス旅行 上田城と懐古園

山本 直



バス旅行は当初は日本平-久能山に行く計画でしたが、ロープウェイや東照宮拝観料もあり、高くなってしまうため他の場所を検討しました。ボウリングの時にバスハイクの場所をいつも決めてくれる小野さんに相談したところ、懐古園と上田城址はどうかとのご意見がありました。時期的に紅葉が期待できるので良い場所だし、2台の中型バスでの計画を、大型バス1台に変更することにより目標金額に収まり実施が決定しました。

11月16日いつもの所沢駅東口郵便局前から8時に出発、最初の目標地の上田城址に到着しました。



上田城 北櫓前

バスから降りてそれぞれが歩き出したため、上田城の北櫓前で集合写真を撮るまでにだいぶ時間が掛かってしまい、城内の見学時間が不足していました。その結果、バスが発車し始めた時、一人で悠々と戻って来る関さんがいました。関さん もう少し遅かったら完全に置いて行かれるところでしたね。

次に向かったのはマンズワイン小諸ワイナリー。ここでランチです。もちろん、工場見学後にはお目当てのワインの試飲です。ワインが少し入った状態で万酔園へ、ここも見事な紅葉でした。



マンズワイン



万酔園

マンズワインの後は小諸懐古園へ、島崎藤村の詩「小諸なる古城のほとり雲白く遊子悲しむ」に歌われた古城です。

ここも期待を上回る紅葉でした。また、園内の小動物園も良かったですね。



懐古園にて



懐古園の紅葉

全行程が終わると会計さんからうれしいお知らせ、500円を返してくれるというんです。参加者一人一人に500円玉が渡されました。いつの間に500円玉を準備してたのか？

出発前に予算を検討した会計さんが500円余りそうと考え、木口さんの虎の子の500円玉貯金を持って来てもらったという事でした。

今こうして、思い出しながら書いているとまたまた、楽しい思い出が甦ってきますね。

## 赤城高原 バスハイクの思い出

小野 慎二



今回で5回目のバスハイクが、7月28日に行われました。バスハイクが行われるようになった経緯は、16班の方から「尾瀬ハイクをしたい」という話があり、関さんが中心になって計画し、コーラスサークルとハイキングサークルのメンバーに声掛けし、マイクロバスで行ったことが始まりでした。

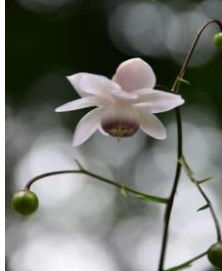
その後、毎年行われるようになり、27年は6月に尾瀬、10月に信州の高ボッチ高原、28年は霧ヶ峰高原の車山、29年はバス2台で入笠山、30年は群馬県の赤城高原に行きました。

毎回天候に恵まれ、高原のさわやかな空気と雄大な景色に見とれている内に、気が付けば予想以上に歩いていて驚くことも多かったです。



7月28日(金)(月例ハイキングの日)8時に所沢駅東口に28名が時間前に集合、関越所沢から赤城インターを經由して赤城自然園へ、高原に咲く沢山の草花を鑑賞し、調達した弁当を積み込んで、再びバスに乗り。海拔1470mのハイキングスタート地点、小沼に到着。ここから下り鳥居峠に向かいました。頂上には1968年まで桐生市からのケーブルカーがありましたが今は廃止され、東海林太郎が歌った「名月赤城山」「赤城の子守歌」の歌碑がある展望台となっていました。この茶店でソフトクリームを食べて一休み。次の目的地の覚満淵に向け下りました。

レンゲショウマ



覚満淵は周囲800mで湿生植物や高原植物の宝庫で小尾瀬と言われ、真夏でも涼しい所、この冷気を浴びながら木道を一周しました。

次の目的地の大沼に向かう途中、土産物店に立ち寄り、試食のお饅頭とお店自慢の佃煮などをいただき英気を養い、土産品も調達しました。

この土産物店の前に広がる大沼は、周囲約4km、海拔1310mの赤城山の噴火によりできた山頂カルデラ。夏はボート遊び、冬は全面結氷によるワカサギ釣りが楽しめます。大沼湖畔を歩き神橋を渡り赤城神社に到着。



ここは徳川家光により再建され、朱色に塗られた現在の建物は、昭和45年にこの地に遷宮されたものです。神社を参拝した後は帰途のバスに乗り込みました。途中、高原トウモロコシの直売所に立ち寄って試食をし、土産のトウモロコシを買って関越道で一路所沢へ。往復のバスの中はおしゃべりに夢中で、時間の経過を忘れていました。

今回のコースは全て下り坂だった為、けがや脱落する人もなく楽しい一日でした。参加した皆さんは足腰の衰えは全く感じられないほどお元気で、縁あって知り合った同期の仲間は、いつまでも仲良く楽しく、残された時間を有意義に過ごせることを願っています。

## 私の趣味－鎌倉彫

亀山 紀美子



「高齢大34期は他のグループより活動が長続きしていて活発ネ！」とよく言われ嬉しいです。思えば早や9年になるのですね。会長さん始め実行委員の方やグループリーダーのお世話のたまものと感謝しています。いろいろ学ばせて頂き又、良い仲間にも恵まれ元気をもらって若返り、充実感に満ちた楽しい日々を過ごしております。

さて、ポーっとしてしまいましたら巡り巡って原稿依頼のお鉢が届いてビックリ！！お断りするとチョコちゃんに叱られるので、初詣の御利益と思ってお受けしました。

ところで私の趣味ですが以前、転勤で甲府に移住の折、鎌倉彫に出会い興味が湧き「私の望みはこれだ！」と嬉しくなりました。早速ご指導を依頼しましたら「費用が掛かるので」とお断りでした。それでもあきらめ切れず、地元のお友達と二人でお願いしたら、受け入れて下さいました。先生のお宅で習い始め、すぐに先生とは信頼関係ができ親密感が増して、先生も次第に私達と会うのを楽しみに待ち受けて下さり長続きしました。

数種類の専用の彫刻刀を揃え、子供の頃の年賀状の版画以来でしたのでワクワクしながら臨みました。先ず、材料はほうの木より少し硬い桂の木で形づくられた手鏡やお盆を手始めに、バラや牡丹などの絵を描き、緊張して

真剣に輪郭に沿って小刀を45度に傾け5ミリ幅に、怪我に気を付け削り取ります。

花の表情が出るように彫刻刀を使い分け深くしたり浅くしたりするのですが、なかなか思うようにはいきません。白生地の際は良さそうに思っても漆塗りで仕上がるとアラが見えてアラアラ！です。でも完成した時の喜びと感動はひとしおです。

そんな繰り返しも慣れてくるとおしゃべりに花が咲き楽しくて10年も続け、所沢に戻ってからも忘れ難く、数年甲府の先生のお宅に通いました。

漆塗りは、生漆を塗り乾かしては7～8回繰り返し、塗り重ねて仕上げるには技術が必要で相当の手間ですし、かぶれるので漆塗りは依頼しましたが、茶たくや銘々皿、なつめ等の茶道具やお料理に彩りが添えられるように平皿も作りました。

今はやめていますが楽しく続けられた趣味となり良い思い出になっています。



茶箱

## 鼻笛（ノーズフルート）に出会って

桧林 和代



みなさんは鼻笛をご存知ですか。私は4年ほど前に「生きがい大学」の入間校に入校したのですが、そこの文化祭で班ごとに何かやらなければならない、同じ班のメンバーのご主人が鼻笛をやっていたらということ、班のメンバー9人全員で鼻笛を教わり文化祭に出演することになりました。これが私と鼻笛の出会いでした。

メンバー全員でカラオケボックスなどに集まり練習を始めたのですが、鼻笛のための楽譜がある訳ではなく、鼻と口にかけて鼻笛を当て、ひたすら曲を覚えて声を出さずに歌います。初めのうちは音を出すことだけでも大変でうまくできませんでしたが、何回か練習を重ねるうちにメロディが吹けるようになり、その年の文化祭では「ふるさと」「朧月夜」「大きな古時計」「みかんの咲く丘」「瀬戸の花嫁」の5曲も演奏することが出来ました。

生きがい大学卒業後も班の仲間たちと「入間はなみずきの会」として月2回定期的に集まって練習を続けています。今では班のメンバーだけでなく外から何人かの方が入会され一緒に楽しく練習しています。

時々、入間まるひろデパートのロビーで演奏会をしたり、介護施設に出前演奏と銘打ってお伺いすることもあります。施設では入居者の皆さんが元気に一緒に歌ってくださいま

す。入居者の皆さんの一日が元気で楽しいものになってくれたらと祈りつつ演奏するのですが、いつも逆に私たちが元気をもらって帰ってきます。私一人ではとても出来なかったであろう介護施設の慰問ですが、「入間はなみずきの会」のメンバーと一緒に「近いうちにお世話になる介護施設の下見ができる」などと冗談を言いながらも、こんな経験が出来ることに感謝の気持ちでいっぱいです。



## なめんなよ! シバタ君

藤井 洋子

「もしもしヤマダ電機のシバタですが藤井〇〇さんいらっしゃいますか」外出中の主人宛に電話です。



暮れに入間店でホットプレートを購入したのでその事かと用件を聞くと、

「娘さんのめぐみさんがカードでテレビをご

購入なのですがその確認です」

「えっ そんな名前の娘はおりませんけど」

「おかしいですねえ 娘さんにテレビを買うように頼んでいませんか」

「頼んでいませんし、主人名義のカードなのになんで娘が使えるの、娘の名前も違うし」とお婆さんの矢継ぎ早の質問に気弱そうなシバタ君はしどろもどろです。



私はてっきり落としたカードを使われたかと思い被害が広がらないうちに早く停止しなければと焦っていました。シバタ君が

「説明が下手で済みません少々お待ちください」電話口で上司らしき人と話す声が聞こえてきます「近くに担当者がいないのでカード会社も名義もわかりません。今警察に連絡しましたのでお待ちください」話のつじつまが合わないし何が何だかさっぱりわかりません。

お巡りさんが到着次第事情を説明して貰う約束をして一旦受話器を置くと、すぐに違う男性から「洋子さんですね、いま何か問題がありませんでしたか」言葉巧みに誘導しようとしてきます。

私の名前まで知っていることに怖くなりこちらから折り返し電話をしますからと一方的に切りました。すぐにスマホで電話番号を調べ所沢のヤマダ電機にかけると「シバタとい

う社員はいません、最近そんな電話があるんですよねえ、心配でしたら警察に電話してください」

店名を使われたサギ事件なのに意外とあっさりとした対応に拍子抜けです。その後ヤマダ電機からの電話は一切ありません。騙されていたらその後どんな展開になっていたのか気になっていると、二日後パソコンに所沢ほっとメールで「ヤマダ電機の名を騙りキャッシュカードを騙し取る詐欺が多発しています」と一斉メールが届きました。

最初の入りで信じてしまった人は90%がそのまま騙されてしまうそうです。二人目の男性が怪しいと感じ機転を利かせた行動に我ながらあっぱれでした。

新米詐欺師のシバタ君、おばちゃんをなめんなよ~!

実は興奮冷めやらず山本さんと関さんに事



の顛末を報告すると、「その“なめんなよー事件”おもしろい、心理描写などをもっと加えてかわら版に書いて」と言われました。カード詐欺は未然に防げたのに、山本さんの上手な誘いかけに最初の入りで90%信じてしまい苦手な原稿を書く羽目となりました。

皆様が楽しみにされているかわら版ですが原稿集めにはとても苦勞されていると聞いています。あなたも編集委員のお誘いに一度は騙されてみては如何!

#### 表紙の写真について

#### うかぶ熱気球 塚本 利夫

朝早くから航空公園（所沢市）に人が集まっています。熱気球の体験搭乗をするためです。空中にただよい上空からの景色を楽しむイベントです。空中散歩として人気があります。この日は風もなく暖かくさわやかでした。熱気球は轟音を響かせて天空に上昇。



青い空と雲がイベントを盛り上げます。写す際に注意した点がひとつありました。写真には小さく映っている火炎ですが、熱気球の向きによっては陰に隠れレンズで捉えることができませんし、小さい画像を強いられたこともあります。果たしてシャッターチャンス到来か。撮影は2018年11月11日9時でした。

#### 編集後記: 広報委員 山本直

先日ランチで出かけたお店でトイレに入りました。鍵が空いていると緑になり、入れると分かるやつです。ところが入って鍵を閉めようと鍵の所を右に回したら硬くて閉められません。やむを得ずドアを抑えながら入ったのですが、出るときにお店の人に言わなきゃと思ひ、その前にちっと左に回してみました。

なんと、ちゃんと閉まるじゃないですか！これってあの有名な「押しでもだめなら引いてみな」ですよ。これを忘れていたとは！！

でもね、原稿依頼するときは押しでダメだからって引いてしまうとそれで終わっちゃい

ます。「押しでダメでも、もう一度押し」が鉄則ですね。

今回、関さんが同期会バス旅行の原稿をお願いする係だったのですが、なんとあっさり断られてしまいました。

他に頼める人もいないし、バス旅行の記事がないと1頁空いてしまうので記事は僕が書く羽目になってしまいました。

まだ、紙面が余っているから、とコロンのイラストでも入れよっと。チョコちゃんと違って著作権の問題がないから。

